

慢性血液透析患者における レボカルニチンの有用性の検討

援腎会すずきクリニック

鈴木一裕

背景

透析患者では
カルニチン欠乏が知られている。
L-カルニチンの効果として、

- 心機能の改善
- 筋痙攣などの筋肉症状の消失
- EPO低反応性貧血の改善

などの効果がある

目的

当院に通院中の透析患者に対し、
L-カルニチンを投与する事で、
カルニチン欠乏状態を改善させ、
その効果について検討する

患者背景(1)

- 対象 L-カルニチン600mg/日を投与した27例中
6ヵ月以上投与継続出来た22例
- 性別 男性16名、女性6名
- 年齢 68.1±1.85歳
- 原疾患 DM:13例 非DM:9例
- 透析歴 44.9±9.94 ヶ月
- 透析時間 4.38±0.07 時間
- 血流量 265±7.8 ml/min
- Kt/v 1.8±0.05

(mean±SE
)

患者背景(2)

・投与理由	栄養状態不良	20名
	下肢痙攣	4名
	ESA抵抗性	1名
投与中止5名		
・中止理由	症状改善せず	2名
	薬疹	1名
	気分不快	1名
	死亡	1名

方法

L-カルニチンを6ヵ月投与して

筋症状の改善度

栄養状態 : DW、alb、GNRI、筋肉量、脂肪量

心機能 : CTR

腎性貧血 : Hb、ESA使用量

全体及びGNRIが91未満の栄養状態の悪い患者に対するL-カルニチンの効果を調査した

※筋肉量、脂肪量はInbody720で測定

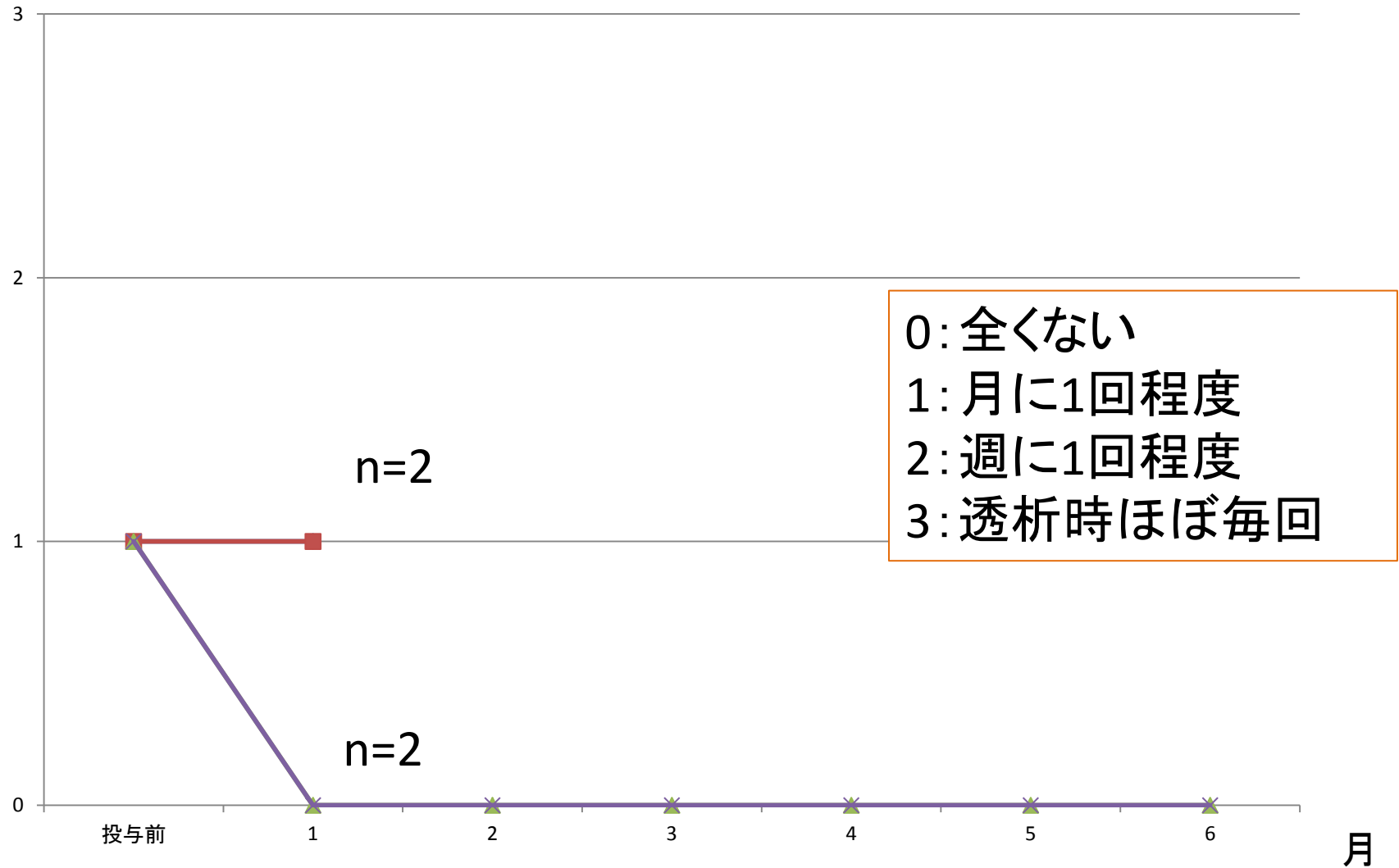
※CTRは透析後測定

※採血結果は週初め透析開始時採取

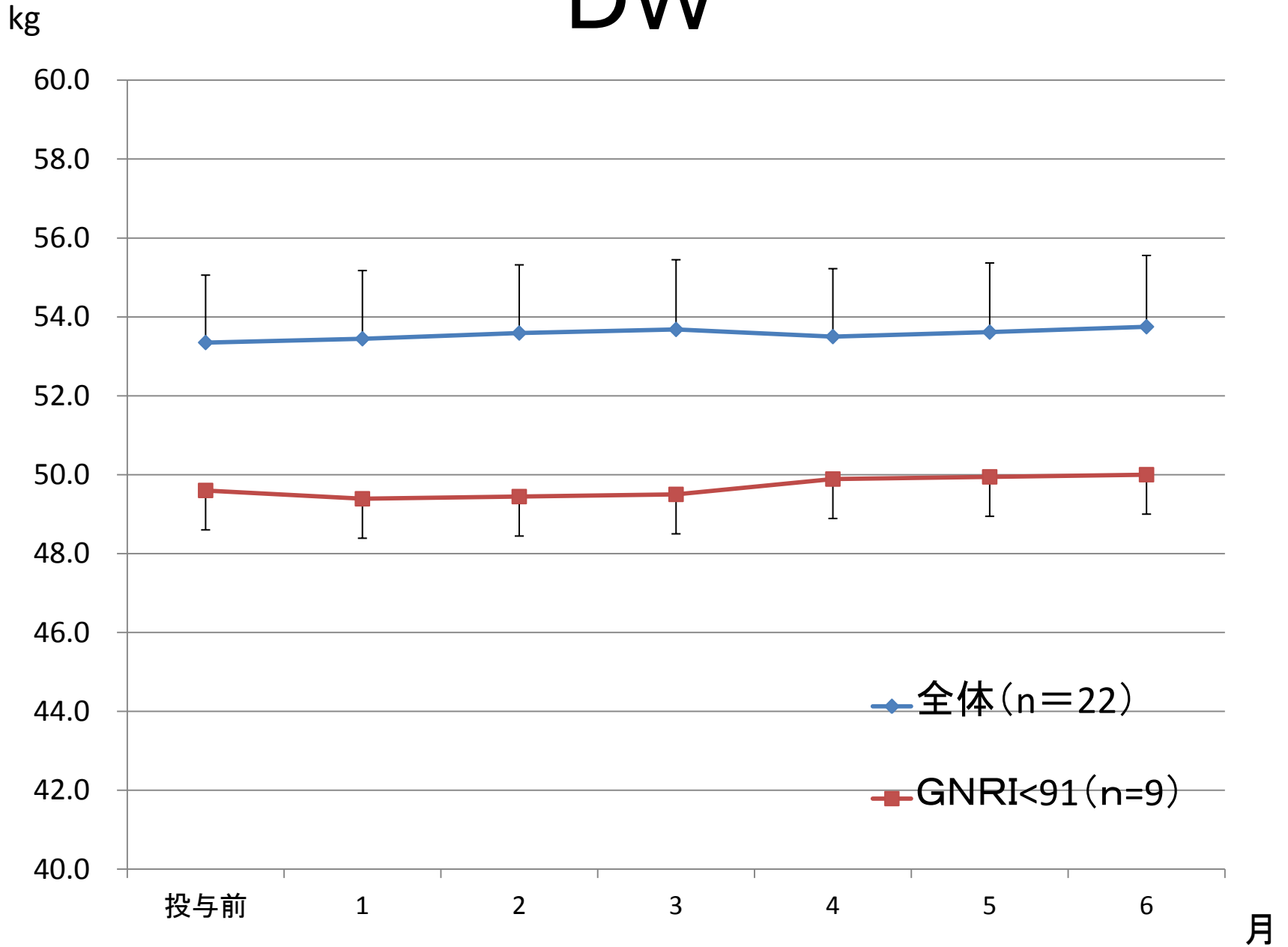
※ESAはダルベポエチン1単位をエポエチン200単位に換算

筋症状の変化

スコア

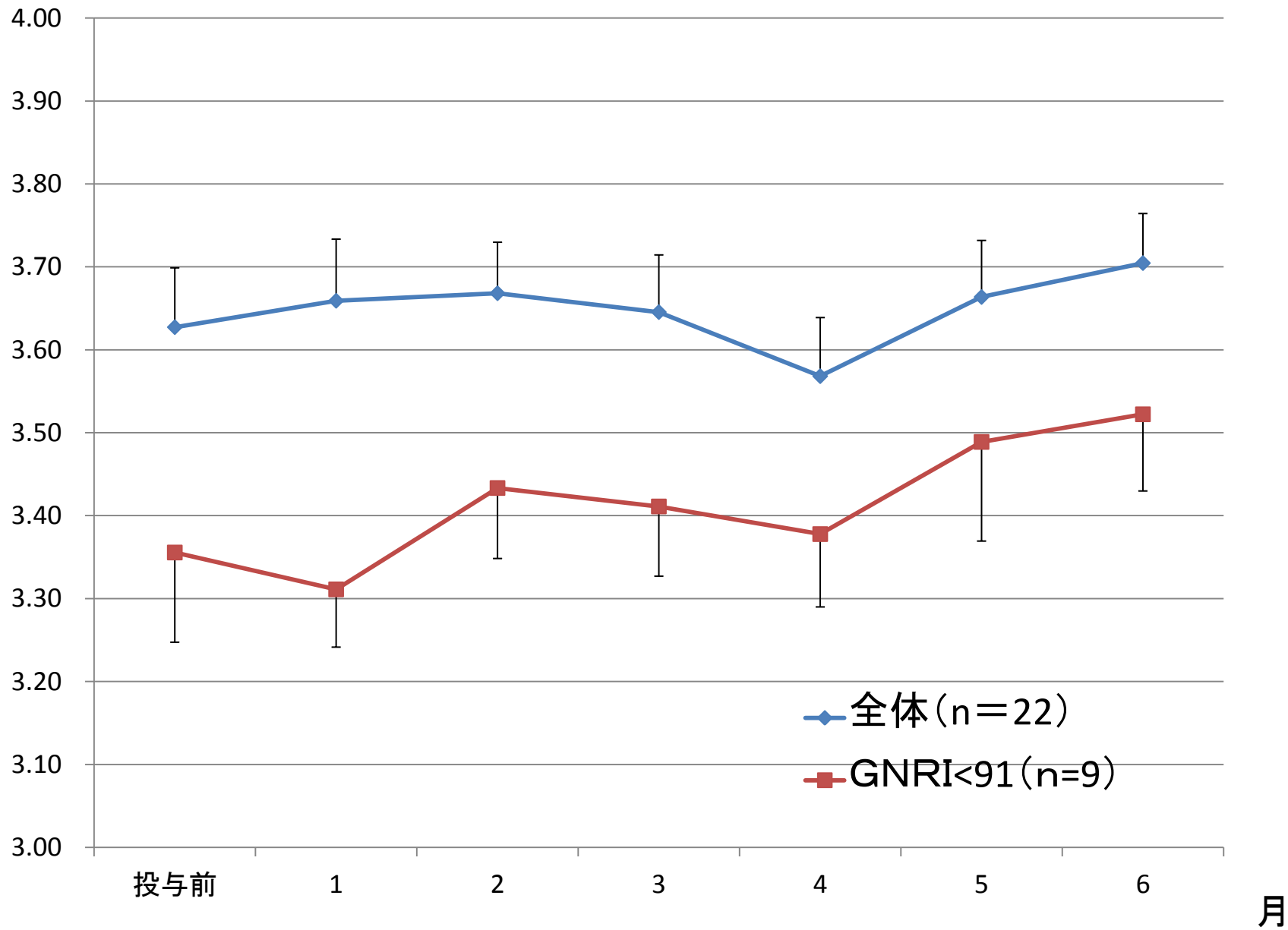


DW

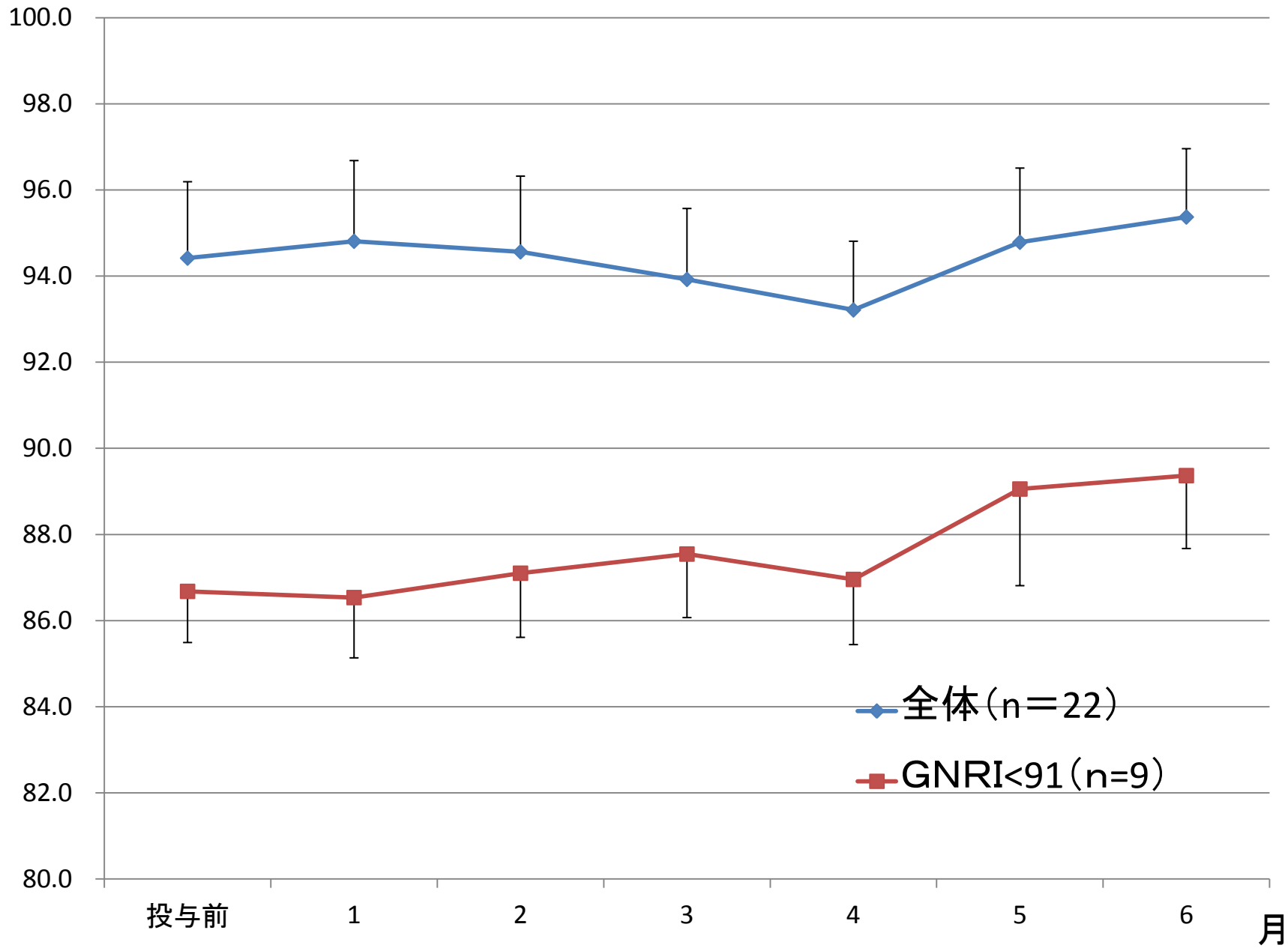


g/dl

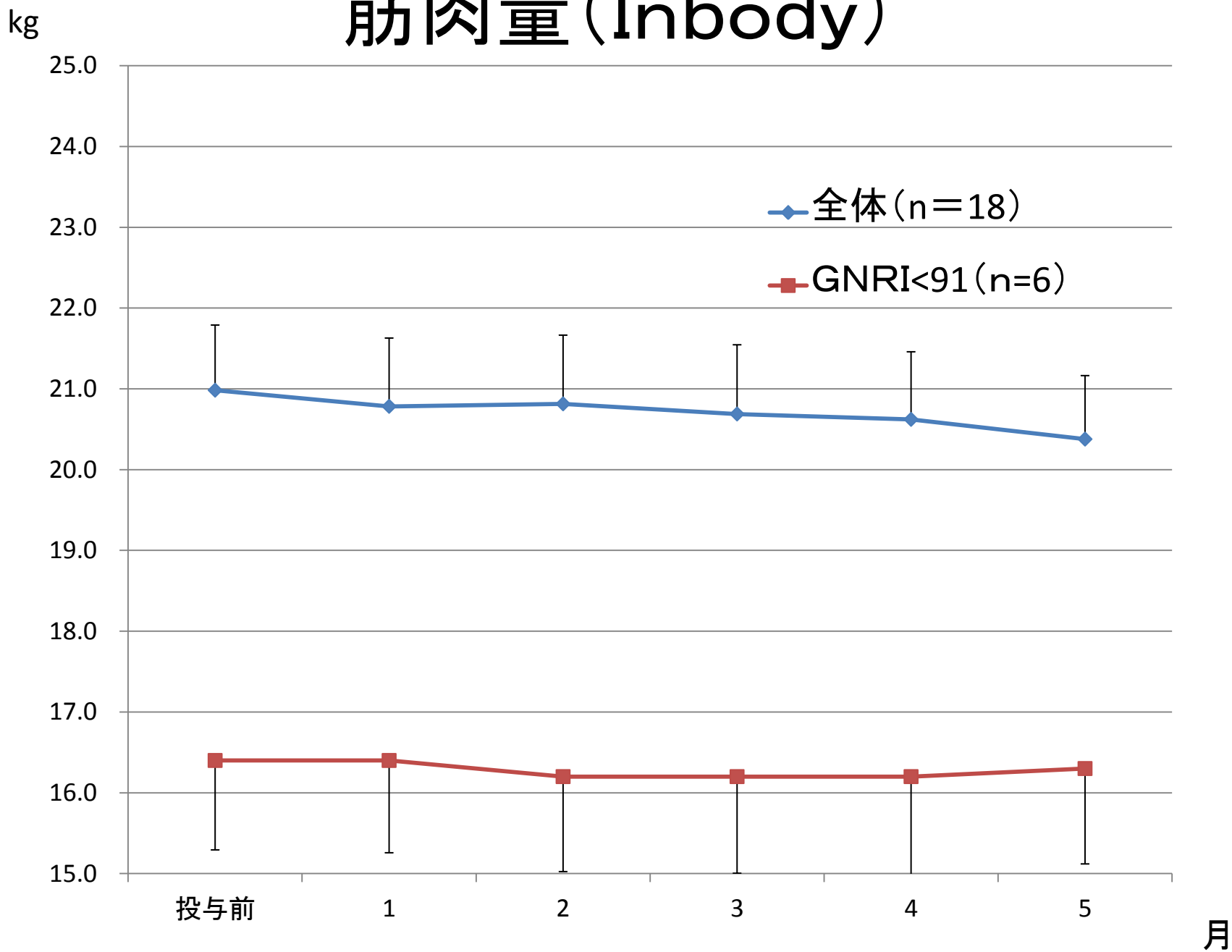
alb



GNRI

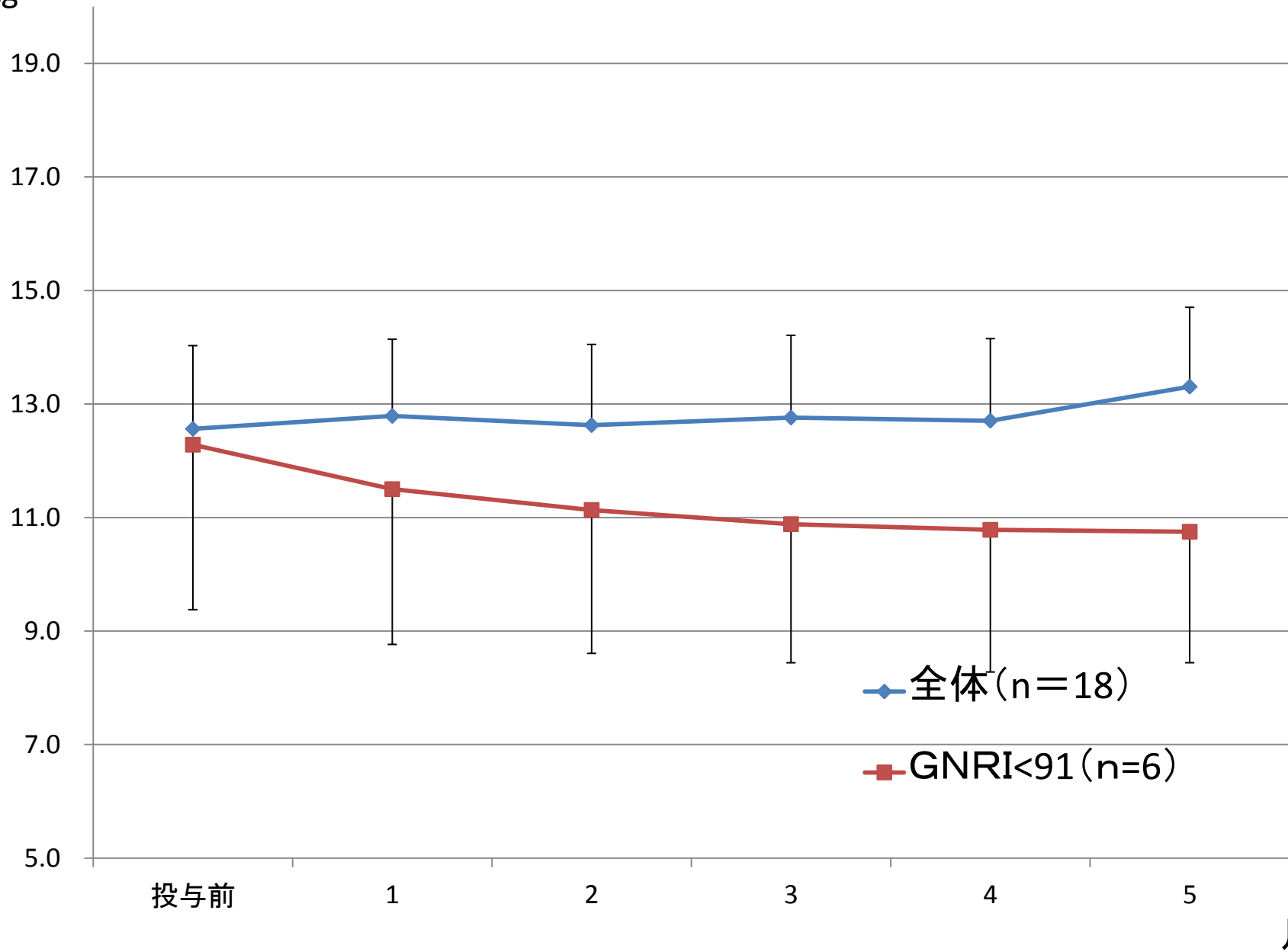


筋肉量 (Inbody)



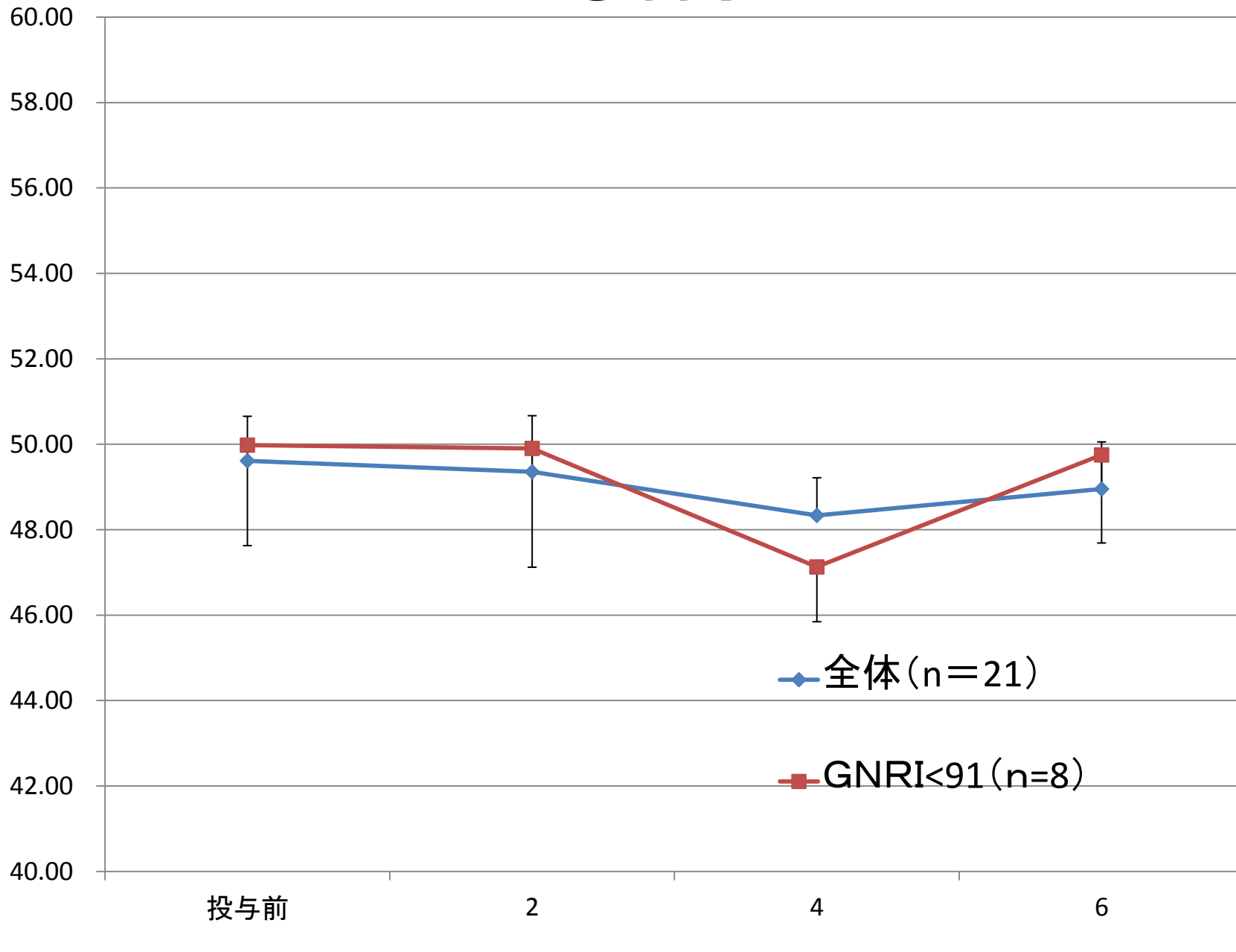
脂肪量 (Inbody)

kg

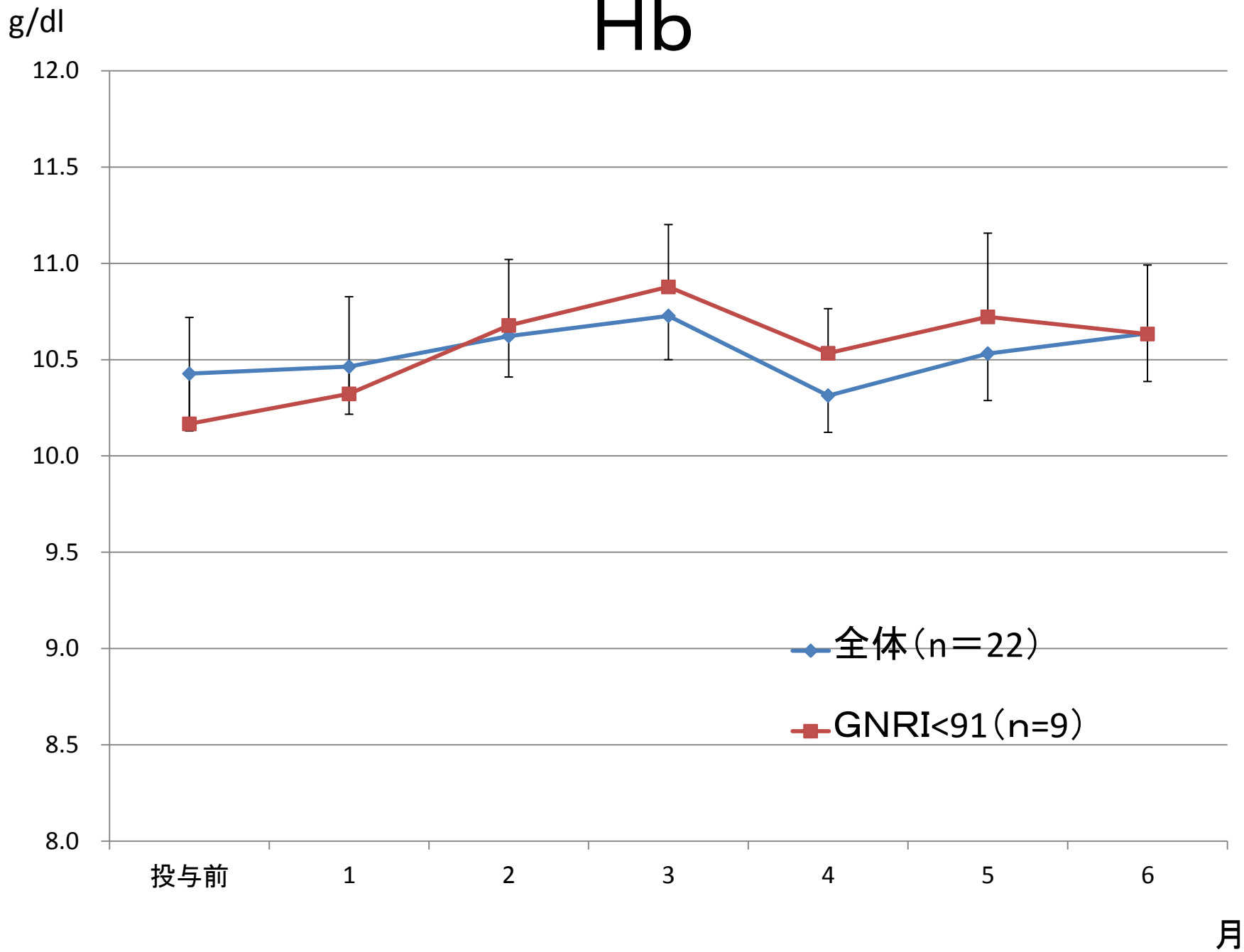


CTR

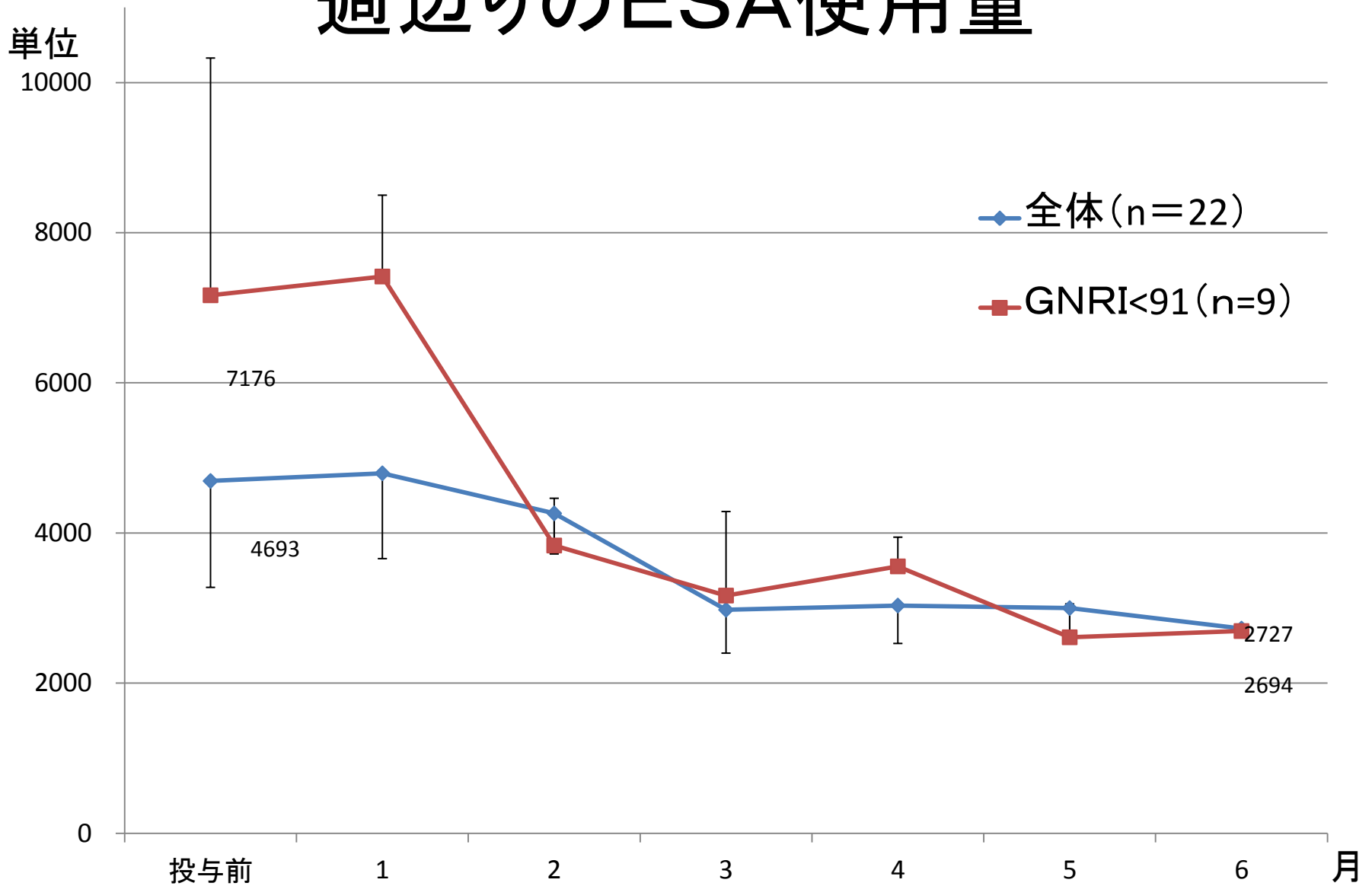
%



Hb



週辺りのESA使用量



9000単位以上 使用の割合	3/22	3/22	2/22	1/22	2/22	1/22	0/22名
-------------------	------	------	------	------	------	------	-------

考察

- 栄養状態としてDW、alb、GNRI、筋肉量、脂肪量について検討したが、有意な変化は認めなかった。
- 心機能の指標としてCTRの経過も同様であった。
- 腎性貧血に対する効果をHb、ESA使用量で観察した。
- HbはESA製材でコントロールしているため、有意な変化を認めなかった。
- ESA使用量は、全体及び低栄養の患者で使用量が減少する傾向にあり、GNRI91未満の低栄養患者では、平均使用量が7176単位から2694単位に減少した。
- 9000単位/週以上のESAを使用している患者数は、L-カルニチンの投与により減少した。

まとめ

- L-カルニチンの投与により、栄養状態や心機能の改善は認めなかったが、低栄養の患者でも低下する事無く推移した。
- ESA使用量は、有意差は無かったが使用量が減量出来る傾向にあり、EPO抵抗性への効果が示唆された。
- 今後は、L-カルニチンの増量と1年以上の長期成績について検討したい。

日本透析医学会 COI開示

筆頭発表者名： 鈴木 一裕

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。